2022年度

東京医科大学医学部医学科　教育到達目標

卒業時に達成すべき学修成果を10の教育到達目標として掲げ、それらを達成するために習得すべき能力を14領域、57項目として設定しています。これら57項目の達成レベルは、各項目ごとに、レベルD, レベルC, レベルB, レベルA, 研修医レベルの５段階のマイルストーンで構成され、レベルAを卒業時の到達目標としています。

		領域数	項目数
1	礼儀・礼節を備え、敬意と思いやりの心をもって他者に接することができる。	2	4
2	リベラルアーツに裏打ちされた広い見地と豊かな教養を身に付け、全人的医療を実践するための能力を備えている。	1	3
3	医療プロフェッショナリズムを理解し、行動で示すことができる。	1	4
4	科学的根拠に基づいた医療の知識や技能を修得し、診療の実践に応用できる。	3	19
5	能動的な学習方法を身につけ、生涯に渡り研鑽を積む習慣を備えている。	1	6
6	ICT(情報通信技術)を利用して的確な医学情報を収集し、活用することができる。	1	4
7	多職種と協調したチーム医療の意義を理解し、実践に応用できる。	1	2
8	予防医学、保健・福祉を理解し、地域医療に貢献するための能力を備えている。	2	7
9	国際的視野を有し、世界の人々の安全、健康と福祉に貢献するための能力を備えている。	1	3
10	医学研究の意義を理解し、基本的研究手法を身につけている。	1	5
	計	14	57

【教育到達目標】 1 礼儀・礼節を備え、敬意と思いやりの心をもって他者に接することができる。

≪礼儀礼節・コミュニケーション≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
1-1 礼儀礼節	① 他者への敬意	他者の価値観、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	常に、他者の価値観や人格を尊重し、敬意を払って接することができる。	他者の価値観や人格を尊重し、敬意を払って接することができる。	他者の価値観や人格の尊重について説明できる。	
	② 専門職としてふさわしい身なり・態度	専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動をとることができる。	診療の場で、医学生として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を実践できる。	医学生として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を実践できる。	医学生として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を説明できる。	
1-2 コミュニケーション	① 様々な背景の患者への配慮	患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、常に良好な医師・患者関係を築くことができる。	患者の年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮して行動できる。	患者の多様な背景を模擬患者を相手に聴取することができる。	患者の多様な背景(年齢、性別、職業、その他)に対する配慮の必要性を説明できる。	
	② 患者・家族への共感/敬意/思いやり	医療の実践において心理的配慮ができる。	患者および家族に、共感、敬意、思いやりをもって接することができる。	相手の背景にあわせたわかりやすい言葉で、相手が理解・納得できるまで誠意をもって説明できる。	医療における患者および家族とのコミュニケーションの意義を説明できる。	

科目一覧

| | | 5-6年 | | 5年 | | 4-5年 | 4年 | | | | | | 3年 | | | | | | | 2年 | | | | | | |

【教育到達目標】 2 リベラルアーツに裏打ちされた広い見地と豊かな教養を身に付け、全人的医療を実践するための能力を備えている。

《リベラルアーツ・全人的医療》

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
2 リベラルアーツ・全人的医療	① 人生と医療の意義への問いかけ	人生とは何か，医療とは何かの問いかけが常態化できている。	人生とは何か、医療とは何かという問いに対して自らの考えを持つことができ、その妥当性について批判的に省察できる。	社会における自らの役割と行為の意味とを深く認識し，そこから人生と医療の意義について自分なりに説明することができる。	人生とは何か，医療とは何かについて、他者や社会の状況を考慮に入れながら考察し、自分なりの答えを語ることができる。	
	② 幅広い関心と創造性	さまざまな分野から精神的な充実を得るとともに、医療を実践するなかで探求心を持続させ、創造性を発揮することができる。	科学・文学・芸術などから得た幅広い見地を医療に活かすことができる。	科学・文学・芸術などさまざまな分野の存在意義について理解し，それを説明することができる。	科学・文学・芸術などさまざまな分野に対して興味・関心をもち、それらについて議論することができる。	
	③ 人間理解と全人的医療	深い人間理解に基づいて全人的医療の価値を理解し、それを実践することができる。	深い人間理解のもとに、多様な人々と対話し信頼関係を構築できる。	文化的・階層的差異に対する関心と共通な人間性に対する理解を深め、医療と関連づけることができる。	具体的な事象から人間の多様性と共通性とを考え、多様性の背景となっている文化的・社会的差異及び歴史的文脈にも目を向けることができる。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | 4-5年 | 4年 | | | | | | 3年 | | | | | | | 2年 | | | | | | |

【教育到達目標】 3 医療プロフェッショナリズムを理解し、行動で示すことができる。

≪医療プロフェッショナリズム≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
3 医療プロフェッショナリズム	① 個人情報保護とプライバシー尊重	医療の社会性・倫理的問題を理解し、個人情報とプライバシーについて倫理的原則に基づいて行動できる。	医療の社会性・倫理的問題を理解し、個人情報とプライバシーについて倫理的原則に基づいて行動できる。	個人情報保護とプライバシーの尊重を理解し、行動できる。	医療機関における個人情報保護とプライバシー尊重について説明できる。	
	② 著作権尊重	記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる。	記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる。	著作権の基本的概念を理解したプレゼンテーションができる。	著作権の基本的概念を説明できる。	
	③ 利益相反	利益相反が生じる可能性を認識し、適切に対処できる。	利益相反が生じる可能性を認識し、適切に対処できる。	利益相反および回避するための行動を説明できる。	利益相反について説明できる。	
	④ 法規、機関内規、専門職社会規範	法律、機関内規、専門職としての社会内規範を遵守できる。	法的責任・専門職としての社会内規範を遵守できる。	社会内規範について、適切に判断できる。	社会内規範について説明できる。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | 4-5年 | 4年 | | | | | | | 3年 | | | | | | | | | | 2年 | | | | | | | | | |

【教育到達目標】 4 科学的根拠に基づいた医療の知識や技能を修得し、診療の実践に応用できる。

≪医療の知識・技能≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
4-1 医療の知識・技能	① 基礎医学	主要な疾患の診療において、病態の理解に基礎医学知識を応用して基本的な判断ができる。	主要な疾患の診療において、病態の理解に基礎医学知識に基づく基本的な判断ができる。	主要な疾患について、病態の理解に必要な基礎医学知識を提示できる。	病態と基礎医学の知識の関連を説明できる。	
	② 臨床医学（疫学・病態・予後）	主要な疾患の診療において、疫学/病態/予後の知識を応用して基本的な判断ができる。	主要な疾患の診療において、疫学/病態/予後の知識に基づく基本的な判断ができる。	主要な疾患の疫学/病態/予後を説明できる。		
	③ 臨床医学（診断）	主要な疾患の診療において、診断方法を選択し、所見を解釈して基本的な判断ができる。	主要な疾患の診療において、診断方法を選択し、所見を解釈できる。	主要な疾患の診断に関する知識を提示できる。		
	④ 臨床医学（治療）	主要な疾患の診療において、治療に関する知識を診療に応用して基本的な判断ができる。	主要な疾患の診療において、治療に関する知識を診療に応用できる。	主要な疾患の治療に関する知識を提示できる。		

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | 4-5年 | 4年 | | | | | | | 3年 | | | | | | | | | | 2年 | | | | | | | | | |

【教育到達目標】 4 科学的根拠に基づいた医療の知識や技能を修得し、診療の実践に応用できる。

≪診療の実践≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
4-2 診療の実践	① 医療面接におけるコミュニケーション	医療面接におけるコミニユケーションのもつ異議を理解し、コミュニケーションスキルを身につけ、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。	医療面接におけるスキルを修得し実践できる。	医療面接に必要な項目を理解できる。	接遇に関する基本的マナーを実践できる。	
	② 医療面接における病歴の聴取と記録	患者の病歴(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー)の聴取と記録ができる。	患者の病歴聴取と記録の項目を挙げることができる。	開放的・閉鎖的質問の方法を説明できる。	医療面接の方法を理解し、模擬患者に実践できる。	
	③ 医療面接におけるインフォームドコンセント	インフォームドコンセントのもとに、患者・家族への適切な指示、指導ができる。	患者・家族への指示、指導内容の内容が説明できる。	インフォームドコンセントに必要な内容を説明できる。	患者中心の医療（インフォームドコンセント）の重要性およびその過程を説明できる。	
	④ 基本的な身体診察法	全身の観察(バイタルサインを含む身体診察)ができ、記載できる。	基本的な全身の観察(バイタルサインを含む身体診察)ができる。	基本的な身体診察法の手技や結果の解釈を提示できる。	基本的な身体診察法の種類や内容を説明できる。	
	⑤ 基本的な臨床検査	病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を行う。	基本的な臨床検査の適応や結果の解釈を説明できる。	基本的な臨床検査の適応や結果の解釈を説明できる。	基本的な臨床検査の種類や内容を説明できる。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | 4-5年 | 4年 | | | | | | | 3年 | | | | | | | | | | 2年 | | | | | | | | | |

【教育到達目標】 4 科学的根拠に基づいた医療の知識や技能を修得し、診療の実践に応用できる。

≪診療の実践≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
4-2 診療の実践	⑥ 基本的手技	基本的手技の適応、実施方法を理解し、実施できる。	基本的手技の実施方法を理解し、指導の下に実施できる。	基本的手技の実施方法を理解し、医療シュミレーション等で実施できる。	基本的手技の種類や内容を説明できる。	
	⑦ 基本的治療法	基本的治療法の適応を決定し、適切に実施できる。	基本的治療法とその適応を説明できる。	基本的治療法を列挙できる。		
	⑧ 医療記録	担当患者の医療記録を記載し、問題点を抽出し、その後の計画も立案できる.	指導の下、担当患者の医療記録を記載し、問題点を抽出できる。	指導の下、医療記録を書くことができる。	医療記録の内容を説明できる。	
	⑨ 診療計画	保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し評価できる。	保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる。	診療計画の作成に必要な保健・医療・福祉について説明できる。		

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | 4-5年 | 4年 | | | | | | | 3年 | | | | | | | | 2年 | | | | | | | |

【教育到達目標】 4 科学的根拠に基づいた医療の知識や技能を修得し、診療の実践に応用できる。

≪診療の実践≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
4-2 診療の実践	⑩ 病状・病態・疾患	患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基いた病態の評価、鑑別診断、初期治療を的確に行う能力を獲得している。 個別の疾患の治療については、専門的な研修の中で補完している。	患者の呈する症状や身体所見、簡単な検査所見に基いて、病態を評価し、鑑別診断や検査計画を提示できる。また、初期治療や個別治療についても提示できる。	患者の呈する症状や身体所見、簡単な検査所見に基いて、病態や鑑別診断を述べることができる。また、初期治療や個別治療について想起できる。	症候学や検査医学、臨床推論に関する基本的な知識について説明できる。	
	⑪ 救急医学	生命や機能的予後に係わる緊急を要する病態や疾患、外傷に対して適切な対応ができる。	2次3次救急疾患の病態に応じた診察ができて、応急処置を述べることができる。	2次3次救急疾患の初診時の評価について説明できる。	バイタルサインやトリアージの測定の基本について説明できる。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | 4-5年 | 4年 | | | | | | 3年 | | | | | | | 2年 | | | | | | |

【教育到達目標】 4 科学的根拠に基づいた医療の知識や技能を修得し、診療の実践に応用できる。

≪医療安全≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
4-3 医療安全	① 患者安全	インシデント報告を入力し、事例の分析ができる。	インシデント報告の意義を説明できる。	ヒューマンエラーの基礎を説明できる。	患者安全の重要性，危険予知・事故対策の基礎を説明できる。	
	② 医薬品・医療機器の安全	医療品・医療機器の管理体制説明できる。	被害の救済制度を説明できる。	医薬品・医療機器被害の具体例を説明できる。	医薬品・医療機器の危険性と管理の必要性を説明できる。	
	③ 感染対策	院内感染発生時の初期行動及び対応ができる。	感染に対する標準予防策を実践できる。	感染症に関する法規を説明できる。	院内・院外で発生しうる重要な感染症について説明できる。	
	④ 医療事故と法	医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。	医療事故防止及び事故後の対処について適切に報告できる。	医師の負う責任（民事・刑事・行政・雇用）を説明できる。	医事法の基本原理を説明できる。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | 4-5年 | 4年 | | | |

【教育到達目標】 5 能動的な学習方法を身につけ、生涯に渡り研鑽を積む習慣を備えている。

≪能動的学修・生涯学習≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
5 能動的学習・ 生涯学習	① 問題探求・解決能力	患者や医療環境の問題点を発見し、適切な情報をもとに解決できる。	・自分の力で問題を発見し、問題解決ができる。 ・得られた情報を分析し、その信頼性を評価できる。	・自分の力で問題を発見し、問題解決の方略を見つけることができる。 ・得られた情報を分析し、有効に活用できる。	・与えられた課題を自分の視点でとらえ直し、問題点を発見できる。 ・問題解決のための情報を収集することができる。	
	② 文書作成力・ 口頭伝達力	患者や医療者の情報を正確に文書に記載できる。	・様々な情報を患者や医療者が理解できるよう伝えられる。 ・患者や医療者の情報を正確に理解できる。	・他者にわかりやすい言葉を選択できる。 ・適切な質問をすることができる。	・自分の考えを決められた様式にしたがって文書と口頭で他者に伝えらることができる。 ・他者の話を真摯に聞くことができる。	
	③ 思考力	創造的思考力や批判的思考力を活用できる。	自分の思考を客観的に観察し、制御できる。	知識を分析・統合し、新しい仮説を立てられる。	・問題点を明確化し、批判的に説明できる。 ・思考の方略を活用できる。	
	④ラーニング・ポートフォリオ（学習実践記録）の活用	ポートフォリオを活用し、将来のキャリアを描くことができる。	ポートフォリオを活用し、自らの学習状況を客観的に監視・評価・改善できる。	自らの到達度を自己省察に基づいて評価し、その内容をポートフォリオに記録できる。	学習成果・収集資料等の学習状況をポートフォリオにまとめることができる。	
	⑤ 継続して学習する力 生涯学習に対する基盤と能力	適切な診療を行うためには、自ら積極的に学ぶことが重要であることを理解する。	適切な学習機会を選択し、自主的に学習を進めることができる。	振り返りを実践し、自己学習を計画的に実践できる。	・学習目標を設定し、その達成方法を選択できる。 ・学習時間を自己管理できる。	
	⑥ 研究	学内外の学会や研究会に積極的に参加し、最新の情報を得ることができる。	臨床または基礎研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つことができる。	実習および実験に積極的に取り組むことができる。	研究マインドの大切さを説明できる。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | 4-5年 | 4年 | | | | | | | 3年 | | | | | | | | | 2年 | | | | | | | | |

【教育到達目標】 6 ICT(情報通信技術)を利用して的確な医学情報を収集し、活用することができる。

≪情報収集・活用≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
6 情報収集・活用	① IT環境およびICT活用学習支援システムの利用	医療情報システムを卒後臨床研修において利用できる。EPOCオンライン卒後臨床研修評価システムを正しく利用できる。ICTを生涯学習に活用できる。	医療情報システムの仕組を理解し、診療参加型臨床実習に必要なデバイスと機能を利用できる。ICTの生涯学習における役割を理解し、利用できる。	eラーニングシステムやeポートフォリオシステムをいろいろなデバイスからアクセスし、正しく利用できる。	大学や自宅などのIT環境において、WIFI、LAN、インターネット、メールなどの基本的な利用環境の設定ができる。	
	② 情報収集	EBMの詳細について説明でき、情報の整理と管理ができ、卒後臨床研修に情報を活用し応用できる。	EBMの概念と論文の主な種類について説明でき、情報の整理と管理ができ、臨床実習に情報を活用し応用できる。	図書館の蔵書検索システム、データベース、インターネットで適切なキーワードを用いて情報を検索し、信頼度を評価した上で情報を入手できる。	図書館の蔵書、データベース、インターネット情報の基本的な検索ができる。	
	③ 情報のプロフェッショナルで倫理的な利用	情報利用をめぐる著作権と個人情報について説明でき、情報を合法的・倫理的にアクセスし利用できる。	情報利用をめぐる著作権と個人情報について説明でき、情報を合法的・倫理的にアクセスし利用できる。	医療における情報管理の重要性、情報発信の仕方について説明できる。	情報を利用するとき、注意すべき事柄について説明でき、情報を正しく引用することができる。	
	④ ソフトウェアの利用	統計解析ソフトウェアを高度な解析に応用し、研究に活用できる。	統計解析ソフトウェアを用いてグラフが作成でき、様々な計算、検定、回帰分析ができる。	プレゼンテーションソフトウェアを症例報告用スライド、学会口頭発表用スライド、ポスターなどの作成に利用し、高度な発表技法に応用できる。	文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの基本的な概念と専門用語について説明でき、基本的な機能を利用し、ドキュメントの作成、保存、編集、印刷ができる。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | 4-5年 | 4年 | | | | | | | 3年 | | | | | | | | | | 2年 | | | | | | | | | |

【教育到達目標】 7 多職種と協調したチーム医療の意義を理解し、実践に応用できる。

≪チーム医療・多職種連携≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
7 チーム医療・ 多職種連携	① 多職種との連携	医療チームのメンバーとの交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる。	多職種と協働し、敬意を払って交流することができる。	多職種の仕事を理解し、説明することができる。	医療における多職種交流の必要性を説明できる。	
	② チーム医療	医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調して行動することができる。	医療チームの構成員として実習に参加し、コミュニケーションをとることができる。	医療チームに必要な構成者と役割を理解し、実習を行うことができる。	医療チームに必要な構成者と役割を説明できる。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | 4-5年 | 4年 | | | | | | 3年 | | | | | | | | | | 2年 | | | | | | | | | |

【教育到達目標】 8 予防医学、保健・福祉を理解し、地域医療に貢献するための能力を備えている。

≪保健・医療・福祉制度の理解と応用≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
8-1 予防と健康管理 ・増進	① 社会医学	社会医学の観点から医療社会に貢献できる。	社会医学の知識を、保健活動及び医療に応用できる。	社会的存在としての人間を重視して研究・診療を行うことの重要性を理解し、社会医学の知識を網羅的に提示できる。	社会医学の基礎的知識を説明できる。	
	② 国際医療	世界の健康の向上および増進のため、国際機関等の活動に参加する。	世界の保健・医療課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境の視点から説明できる。	世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる。	世界の保健・医療関連について説明できる。	
	③ 健康増進・予防	地域や臨床の場での予防医療を実践できる。	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を保健活動及び医療に応用できる。	頻度の高い疾病について、環境衛生の改善、伝染病の予防、衛生教育、疾病の早期診断と予防的治療のための医療など、予防戦略についての知識を提示できる。	基礎的な予防医療について説明できる。	
	④ 公衆衛生	地域および行政機関等において、人々の健康の向上および増進のための活動ができる。	地域住民、労働者、学生等、それぞれの集団の健康状態を把握し、その向上及び増進のために必要な保健活動及び医療を説明できる。	様々な集団や場に特有の健康問題とその解決に資する方策を説明できる。	人々の健康の向上、増進に関する基礎的な知識および行政について説明できる。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | 4-5年 | 4年 | | | | | | | 3年 | | | | | | | | | | 2年 | | | | | | | | | |

【教育到達目標】 8 予防医学、保健・福祉を理解し、地域医療に貢献するための能力を備えている。

≪保健・医療・福祉制度の理解と応用≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
8-2 保健・医療・福祉制度の理解と応用	①医療体制の構成要素の理解	様々な情報源（かかりつけ医、家族、地域の福祉職員や、入院および外来診療録など）から関連する情報を効果的に取得し、診療に活用することができる。	医療体制の主な構成要素の役割・意義を理解・考慮した医療を、指導医の指導/監督のもとで実践できる。	医療体制の主な構成要素（患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業（製薬会社等）、診療報酬、薬価）について、役割・意義を説明できる。	医療体制の主な構成要素を説明できる。	
	②医療保険/コスト/アクセスを考慮した診療	医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。	医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した医療を、指導医の指導/監督のもとで実践できる。	医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして医療への影響を説明できる。	医療保険、コストに関する基本的知識を説明できる。	
	③保健・医療・福祉政策形成と参加	臨床現場における経験を保健・医療・福祉政策形成にフィードバックできるよう、そのような視点をもって医療にあたるとともに、フィードバックのための窓口を持てる。	保健・医療・福祉制度や医療提供体制が、保健・医療・福祉の質と量へ与える影響を、説明できる。	保健・医療・福祉制度について説明できる。	保険・医療・福祉制度の基本的知識を説明できる。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | | 4-5年 | 4年 | | | | | | | | | | 3年 | | | | | | | | | |

【教育到達目標】 9 国際的視野を有し、世界の人々の安全、健康と福祉に貢献するための能力を備えている。

≪国際人としての基盤≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
9 国際人としての基盤	① 一般教養	幅広い教養と豊かな感性をもちながら、医療従事者として国際社会に貢献できる。	国際社会の中で医療に従事する者として幅広い教養と豊かな感性をもっている。	さまざまな事象に関心をもち、幅広い教養を身につけるべく積極的に行動できる。	さまざまな事象に関心をもち、幅広い教養を身につけようとする積極的な姿勢を身につけている。	
	② 国際感覚・国際的視点	国際的視野を持った上で、実際に海外での活動（留学を含む）に参加する。	国内外のさまざまなトピックについて考えをめぐらし、他と議論する習慣を身につけている。海外でも活動できる能力を身につけている。	国内外のさまざまなトピックについて関心を持ち、積極的に議論できる。	国内外のさまざまなトピックについて関心を持つ姿勢を身につけている。	
	③ 国際言語（英語・その他）の運用力	海外での研究・臨床実習に参加することができる英語力を有する。	医学・科学の分野において新たな情報を入手することができ、英語を用いて自らの思考にまとめ、発信することができる。また、国内外の医療現場でのコミュニケーションができる。	一般的英語表現、ならびに科学・医学の専門表現が理解できるとともに、英語を用いて自らの考えをある程度発信できる。	一般的英語表現が理解できるとともに、英語を用いて自己紹介でき、英語を用いて自らの考えをある程度発信できる。基本的な医学専門用語の知識を身につけている。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | 4-5年 | 4年 | | | | | | | 3年 | | | | | | | | | 2年 | | | | | | | | |

【教育到達目標】 10 医学研究の意義を理解し、基本的研究手法を身につけている。

≪医学研究・科学的探究≫

領域/項目		到達目標				
領域	項目	医師として実践できる	単位認定の要件である			レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		研修医レベル	卒業時レベル A	レベル B	レベル C	レベルD
10 医学研究・科学的探究	① 研究理論と方法	症例について、研究方法を選択し、症例研究を実施できる。	研究を遂行するための科学的方法を選択し、「自主研究」を実施できる。	基礎となる科学的方法論に配慮し、「実習実験」を実施できる。	基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	
	② 医学研究倫理	医学研究における倫理規範および被験者に配慮して「症例研究」を遂行できる。	医学研究における倫理規範に配慮して「自主研究」を遂行できる。	医学研究における倫理規範に配慮して「実習実験」を行うことができる。	医学研究における倫理規範を理解し、説明できる 。	
	③ 研究計画の立案	症例に基づき、仮説を立て、それを検証するための方法を説明できる。	仮説を立て、更に解決するための方法を説明できる。	現状を把握し、問題提起できる。	関連する文献を集め、まとめることができる。	
	④ 研究の遂行	指導のもとで研究計画に基づいて症例研究を実施できる。	指導・監督のもとで研究計画に基づいて研究を実施できる。	指導・監督のもとで研究計画に基づいて「実習実験」を施行できる。	研究計画に基づいて「仮想実験」を施行できる。	
	⑤ 研究発表	「症例研究」等で得た新しい知見について口頭および文書で明確に説明し、発展的研究テーマを設定できる。	「自主研究」等で得た新しい知見について口頭および文書で明確に説明し、発展的研究テーマを設定できる。	「実習実験」で得られた結果の意義を議論し、実験の問題点や付随する研究テーマを抽出できる。	「仮想実験」で予期される結果の意義を、口頭あるい文書で説明できる。	

科目一覧

| | 5-6年 | | 5年 | | | 4-5年 | 4年 | | | | | | 3年 | | | | | | | 2年 | | | | | | |